

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-8367

(P2014-8367A)

(43) 公開日 平成26年1月20日(2014.1.20)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
A 6 2 B 18/02 (2006.01) A 6 2 B 18/02 C 2 E 1 8 5

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 17 頁)

(21) 出願番号	特願2012-149190 (P2012-149190)	(71) 出願人	303050207
(22) 出願日	平成24年7月3日 (2012.7.3)		株式会社ビー・エヌ
(11) 特許番号	特許第5143970号 (P5143970)		群馬県桐生市宮本町 3-8-31
(45) 特許公報発行日	平成25年2月13日 (2013.2.13)	(74) 代理人	100092808
			弁理士 羽鳥 亘
		(74) 代理人	100140981
			弁理士 中村 希望
		(72) 発明者	金子 功
			群馬県桐生市宮本町 3-8-31 株式会
			社ビー・エヌ内
		Fターム(参考)	2E185 AA07 BA08 CC36

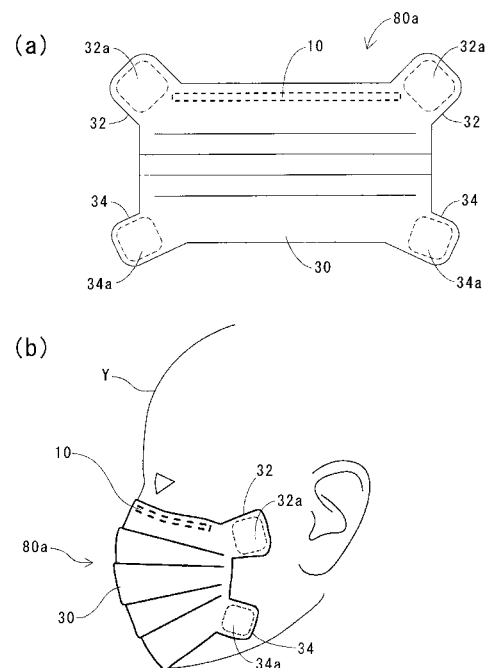
(54) 【発明の名称】 マスク

(57) 【要約】

【課題】着用者の顔面に貼るタイプの保持部材を用いながら、何回でも付け外しが可能なマスクを提供する。

【解決手段】本発明に係るマスク80a、80bは、粘着層32a、34aにシリコンゲル系の粘着剤を用いているため、複数回の付け外しを行っても粘着力の劣化がほとんど発生しない。このため、何回付け外しを行っても強い粘着力を維持することができる。さらに、シリコンゲル系の粘着層32a、34aは肌にフィットするため、従来のマスクよりも着用時の圧迫感や装着感を軽減することができる。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

通気性を備え着用者の鼻及び口を覆うマスク面布と、
前記マスク面布の両側部に設けられ前記マスク面布を着用者の顔面に保持する保持部材と、
を備えたマスクにおいて、
前記保持部材は、前記マスク面布の両側上部に設けられた一对の第 1 保持部と、前記マスク面布の両側下部に設けられた一对の第 2 保持部と、第 1 保持部及び第 2 保持部の着用者側の面に設置された複数回の粘着が可能な粘着層と、を有し、
前記第 1 保持部の粘着層が着用者の頬骨部分に密着し、前記第 2 保持部の粘着層が着用者の下顎部分に密着することで前記マスク面布を着用者の顔面に保持することを特徴とするマスク。

10

【請求項 2】

粘着層がシリコンゲル系の粘着剤からなることを特徴とする請求項 1 記載のマスク。

【請求項 3】

マスク面布が、着用者の鼻の位置に切欠き部を備えた第 1 マスク面布と、前記切欠き部を覆う第 2 マスク面布と、を有し、
第 2 マスク面布の下端は前記切欠き部の下端よりも下方に位置し、第 2 マスク面布の下部に第 1 マスク面布と第 2 マスク面布とで形成される間隙部を備え、
着用者の鼻を前記切欠き部を通して第 2 マスク面布で覆うとともに、着用者の鼻の穴の方向に前記間隙部を位置させることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載のマスク。

20

【請求項 4】

間隙部に、芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌のいずれかの成分を有する機能部材を着脱可能に設置したことを特徴とする請求項 3 記載のマスク。

【請求項 5】

マスク面布に着用者の口部分を覆う着脱可能なガーゼ部材を備えたことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれかに記載のマスク。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、通気性を備え着用者の鼻、口を覆うマスクに関するものである。

30

【背景技術】**【0002】**

近年、インフルエンザその他の空気感染症に対する予防やスギ花粉等のアレルギー対策として、着用者の鼻及び口を覆うマスクが一般的に使用されている。これらマスクの面布には多種多様な形状、材質、構成のものが商品化されている。ただし、マスク面布の保持は、マスク面布の両側部に設けられたゴム紐等の保持部材を着用者の耳に掛けることで行われるのが一般的である。しかしながら、耳に掛けるタイプの保持部材は着用者が耳に不快感や痛みを感じる場合がある。この問題点に対して下記「特許文献 1」では、マスク面布の保持に両面テープを用いた考案が開示されている。

40

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】登録実用新案第 3 1 2 5 3 0 7 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

しかしながら、マスク面布の保持に両面テープを用いた場合、マスクを顔面から外すと保持部材である両面テープの粘着力が著しく低下する。このため、マスクを顔面から外す度に両面テープの交換が必要となり極めて煩わしいという問題点がある。

【0005】

50

本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、着用者の顔面に貼るタイプの保持部材を用いながら、何回でも付け外しが可能なマスクを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明は、

(1) 通気性を備え着用者の鼻及び口を覆うマスク面布30と、前記マスク面布30の両側部に設けられ前記マスク面布30を着用者Yの顔面に保持する保持部材と、を備えたマスクにおいて、

前記保持部材は、前記マスク面布30の両側上部に設けられた一对の第1保持部32と、前記マスク面布30の両側下部に設けられた一对の第2保持部34と、第1保持部32及び第2保持部34の着用者Y側の面に設置された複数回の粘着が可能な粘着層32a、34aと、を有し、

前記第1保持部32の粘着層32aが着用者Yの頬骨部分に密着し、前記第2保持部34の粘着層34aが着用者Yの下顎部分に密着することで前記マスク面布30を着用者Yの顔面に保持することを特徴とするマスク80a、80b(80a'、80a''、80b'、80b'')を提供することにより、上記課題を解決する。

(2) 粘着層32a、34aがシリコンゲル系の粘着剤からなることを特徴とする上記(1)記載のマスク80a、80b(80a'、80a''、80b'、80b'')を提供することにより、上記課題を解決する。

(3) マスク面布30が、着用者Yの鼻の位置に切欠き部36を備えた第1マスク面布30aと、前記切欠き部36を覆う第2マスク面布30bと、を有し、

第2マスク面布30bの下端は前記切欠き部36の下端よりも下方に位置し、第2マスク面布30bの下部に第1マスク面布30aと第2マスク面布30bとで形成される間隙部40を備え、

着用者Yの鼻を前記切欠き部36を通して第2マスク面布30bで覆うとともに、着用者Yの鼻の穴の方向に前記間隙部40を位置させることを特徴とする上記(1)又は(2)に記載のマスク80b(80b'、80b'')を提供することにより、上記課題を解決する。

(4) 間隙部40に、芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌のいずれかの成分を有する機能部材42を着脱可能に設置したことを特徴とする上記(3)記載のマスク80b(80b'、80b'')を提供することにより、上記課題を解決する。

(5) マスク面布30に着用者Yの口部分を覆う着脱可能なガーゼ部材44を備えたことを特徴とする上記(1)乃至(4)のいずれかに記載のマスク80a、80b(80a'、80a''、80b'、80b'')を提供することにより、上記課題を解決する。

【発明の効果】

【0007】

本発明に係るマスクは、保持部材にゴム紐等を使用しないため着用者の耳に不快感や痛みが生じることはない。また、保持部材を着用者の顔面に密着させることでマスク面布を保持するため、ゴム紐等を用いた従来のマスクよりも着用時の圧迫感を軽減することができる。さらに、保持部材にシリコンゲル系の粘着層を用いるため、マスクの付け外しによる粘着力の劣化がほとんど生じない。このため、マスクの付け外しを何回でも行うことができる。

【0008】

また、本発明に係る第2の形態のマスクは、着用者の鼻の穴の方向に間隙部を有している。そして、この間隙部に芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌の成分を有する機能部材を収容することにより、マスクに上記の芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌の機能を付与することができる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】本発明に係る第1の形態のマスクを示す図である。

【図 2】本発明に係る第 2 の形態のマスクを示す図である。

【図 3】本発明に係る第 1 の形態のマスクの他の形態を示す図である。

【図 4】本発明に係る第 2 の形態のマスクの着用状態を示す図である。

【図 5】本発明に係る第 2 の形態のマスクの他の形態を示す図である。

【図 6】ガーゼ部材を備えた本発明に係るマスクを示す図である。

【図 7】マスク面布の上部に粘着層を備えた本発明に係るマスクを示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0010】

本発明に係るマスクの実施の形態について図面に基づいて説明する。ここで、図 1 (a) は本発明に係る第 1 の形態のマスク 8 0 a を正面から見た図である。また、図 1 (b) は第 1 の形態のマスク 8 0 a の着用状態を示す図である。また、図 2 (a) は本発明に係る第 2 の形態のマスク 8 0 b を正面から見た図である。また、図 2 (b) は第 2 の形態のマスク 8 0 b を側面から見た図である。また、図 4 は第 2 の形態のマスク 8 0 b の着用状態を示す図である。尚、図 4、及び後述の図 6 においては、マスク 8 0 b の着用状態をより明確に表すためマスク 8 0 b を透過状態で示す。

【0011】

先ず、本発明に係る第 1 の形態のマスク 8 0 a、第 2 の形態のマスク 8 0 b に共通する構成を説明する。図 1、図 2 に示す本発明に係るマスク 8 0 a、8 0 b は、通気性を備え着用者 Y の鼻及び口を覆うマスク面布 3 0 と、マスク面布 3 0 の両側上部に設けられた一対の第 1 保持部 3 2 と、マスク面布 3 0 の両側下部に設けられた一対の第 2 保持部 3 4 と、第 1 保持部 3 2 の着用者側の面に設置された複数回の粘着が可能な粘着層 3 2 a と、第 2 保持部 3 4 の着用者側の面に設置された複数回の粘着が可能な粘着層 3 4 a と、を有している。

【0012】

マスク面布 3 0 は、従来のマスク面布に用いられる周知の紙や布を使用することができる。特に、安価で使い捨てが可能な不織布を用いることが好ましい。また、マスク面布 3 0 の上辺部には、容易に変形が可能な変形部材 1 0 を設置しても良い。この変形部材 1 0 は例えば金属製のワイヤや薄板で形成されており、着用者 Y が自身の鼻部にフィットするように変形させることで、マスク面布 3 0 上部における鼻梁横部分の密閉性を更に向上させることができる。尚、変形部材 1 0 は第 2 の形態のマスク 8 0 b にも設置が可能である。この場合、後述の第 2 マスク面布 3 0 b の上部を幅広に形成し、この幅広に形成した部位に変形部材 1 0 を設置することが好ましい。

【0013】

また、マスク 8 0 a、8 0 b の保持部材は第 1 保持部 3 2 と第 2 保持部 3 4 とそれらの粘着層 3 2 a、3 4 a とで構成され、図 1 (b) 及び図 4 に示すように、上側の第 1 保持部 3 2 の粘着層 3 2 a が着用者 Y の頬骨部分に密着し、下側の第 2 保持部 3 4 の粘着層 3 4 a が下顎部分に密着することでマスク面布 3 0 を着用者 Y の顔面に保持する。このように、本発明に係るマスク 8 0 a、8 0 b は粘着層 3 2 a、3 4 a が頬骨部分と下顎部分とに分かれているため、着用者 Y の口の開閉を阻害せずマスク 8 0 a、8 0 b を着用したまま違和感無く会話を行うことができる。

【0014】

また、本発明に係るマスクでは粘着層 3 2 a、3 4 a にシリコンゲル系の粘着剤を用いることが好ましい。そして、粘着層 3 2 a、3 4 a は、シリコンゲル系の粘着テープを第 1 保持部 3 2、第 2 保持部 3 4 に固定することで形成することが好ましい。ここで、シリコンゲル系の粘着剤は低刺激でかぶれにくく、またアレルギーの原因物質にもなりにくいという特徴を有している。このため、乳幼児や高齢者、アレルギーを有する人等にも問題なく使用することができる。また、シリコンゲル系の粘着剤は着用者 Y の肌に密着する形で粘着力を発揮する。ただし、粘着剤自体の粘着力はさほど強くないため、粘着層 3 2 a、3 4 a を剥がす際にも肌の角質成分を引き剥がすことがない。このため、着用者 Y は粘着層 3 2 a、3 4 a を剥がす際にも痛みを感じず、また肌がダメージを受けることもない

。さらに、粘着層 3 2 a、3 4 a は着用者の顔面に施された化粧の上からでも十分な粘着力を発揮するとともに、粘着層 3 2 a、3 4 a を剥がす際にも化粧落ちがほとんど生じない。このように、粘着層 3 2 a、3 4 a には角質成分や化粧が付着しないため、複数回の付け外しを行っても粘着力の劣化がほとんど発生しない。このため、何回付け外しを行っても強い粘着力を維持することができる。

【0015】

尚、第 1 の形態のマスク 8 0 a は、マスク面布 3 0 の横方向に沿って複数のブリーツ（折り返し）が形成されており、着用時にマスク面布 3 0 を上下方向に引くことで、マスク面布 3 0 の縦寸法を調整することができる。また、非着用時はマスク面布 3 0 を左右方向に引くことで、図 1（a）の状態に復帰する。

10

【0016】

次に、本発明に係る第 1 の形態のマスク 8 0 a の他の形態を図 3 に示す。ここで、図 3（a）、（b）に示すマスク 8 0 a' は、マスク面布 3 0 を着用者 Y の顔面にフィットする形状としマスクの密閉性を向上させたものである。また、図 3（c）、（d）に示すマスク 8 0 a'' は、マスク面布 3 0 における着用者 Y の目の下に位置する部分をカットして、着用者 Y の視野を確保しながら着用時のフィット性を向上させたものである。

【0017】

また、第 2 の形態のマスク 8 0 b のマスク面布 3 0 は、着用者 Y の鼻の位置に切欠き部 3 6 を備えた第 1 マスク面布 3 0 a と、切欠き部 3 6 を覆う第 2 マスク面布 3 0 b と、を有している。そして、マスク 8 0 b の着用時において着用者 Y の鼻は、図 4 に示すように、第 1 マスク面布 3 0 a に形成された切欠き部 3 6 を通して第 2 マスク面布 3 0 b によって覆われる。

20

【0018】

また、第 2 マスク面布 3 0 b の下端は切欠き部 3 6 の下端よりも下方に位置している。このため、第 1 マスク面布 3 0 a と第 2 マスク面布 3 0 b との間には隙間部分である間隙部 4 0 が形成される。この間隙部 4 0 は、マスク 8 0 b の着用時には着用者 Y の鼻の穴の方向、即ち着用者 Y の鼻の下に位置する。よって、着用者 Y の呼気は鼻から間隙部 4 0 に排出される。これにより、着用者 Y の呼気が鼻梁の横を通してマスク面布 3 0 の上側に抜けるが防止され、着用者 Y が眼鏡を着用している場合でも呼気による眼鏡の曇りを防止することができる。

30

【0019】

また、外気を直接肺に取り込む口呼吸は、外気を鼻腔内で適度に除塵、加湿する鼻呼吸より、健康上、美容上好ましいものではない。この点、本発明に係るマスク 8 0 b は、間隙部 4 0 の存在によりマスク着用時の鼻呼吸を楽に行うことができる。これにより、着用者 Y に対して健康上、美容上好ましい鼻呼吸をマスクの着用時にも促すことができる。

【0020】

また、間隙部 4 0 には、図 4（b）に示すように、芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌等の成分を有する機能部材 4 2 を収容することができる。この機能部材 4 2 は着脱及び交換が可能となっており、長時間の使用等により機能部材 4 2 の能力が低下した場合、新しい機能部材 4 2 に交換することでマスク 8 0 b を破棄することなくこれらの機能を維持することができる。これにより、マスク 8 0 b の長期使用が可能となり、経済的であると同時にゴミの削減を図ることができる。また、機能部材 4 2 は鼻の穴の方向に位置する間隙部 4 0 に設置されるため、鼻の吸気に対する効果的な芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌（除菌）を行うことができる。尚、機能部材 4 2 は着用者 Y の好みや使用状況、使用目的、使用環境に応じて適宜、選択及び交換が可能である。このため、着用者 Y はその時々に応じてマスク 8 0 b に必要な機能を付与することができる。

40

【0021】

尚、機能部材 4 2 に用いる芳香成分の例としては、カモミール、ラベンダー、ミント等のハーブの芳香成分や、ローズ、ミカン、レモン等の花や果実の芳香成分等が挙げられる。この場合、マスク 8 0 b は芳香機能を備え、着用者 Y はマスクの着用時にも着用者 Y の

50

好む香りを嗅ぐことができる。更に、鎮静効果等を有するアロマ成分を含んだ機能部材 42 を用いれば、着用者 Y は職場や公共の場でも人の目を気にせずにアロマ成分によるリラックス効果を得ることができる。

【0022】

また、消臭成分の例としては活性炭等の周知の消臭成分が挙げられる。この場合、マスク 80b は消臭機能を備え、着用者 Y が鼻から吸気する外気の中の臭い成分を除去する。

【0023】

また、保湿成分の例としてはグリセリン等の多価アルコール、その他の周知の保湿成分が挙げられる。そして、機能部材 42 としてはこれら保湿成分を含有した周知のウェットフィルタ等が挙げられる。この場合、マスク 80b は保湿機能を備え、マスク面布 30 内の空気に適度な湿り気を付与する。これにより、着用者 Y の（マスク面布 30 に覆われた部位の）肌を保湿するとともに、着用者 Y の吸気を湿らせて細菌やウィルスの人体への侵入等を防止し、着用者 Y の美容と健康の維持を図ることができる。

【0024】

また、除塵成分の例としては各種フィルタや活性炭等の周知の除塵部材が挙げられる。この場合、マスク 80b は除塵機能を備え、マスク 80b の除塵効果をさらに向上させることができる。

【0025】

また、抗菌成分の例としてはカテキン、銀（Ag）等、周知の抗菌成分が挙げられる。この場合、マスク 80b は抗菌機能を備え、保湿による抗菌作用よりも優れた抗菌機能を得ることができる。

【0026】

尚、機能部材 42 に付与する成分は複数組み合わせても良い。また、この成分の組み合わせを着用者 Y 自身が選択可能としても良い。

【0027】

尚、上記の芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌成分が液体状の場合、これら液体状の機能成分を布や脱脂綿、スポンジ等に含ませて、これを機能部材 42 とすることができる。また、上記の機能成分もしくは機能成分を含有した材料を、粉末状、粒状、ブロック状、板状、シート状、ジェル状等に加工して、これを機能部材 42 としても良い。尚、機能部材 42 が粉末状、粒状、ブロック状、ジェル状等の場合、これら機能部材 42 を通気性のある袋等に収容して用いても良い。

【0028】

次に、本発明に係る第 2 の形態のマスク 80b の他の形態を図 5 に示す。ここで、図 5（a）、（b）に示すマスク 80b' は、マスク面布 30 の形状を矩形化して着用者 Y の顎部分をマスク 80b よりも広範囲で覆うことを可能としている。また、図 5（c）、（d）に示すマスク 80b'' は、着用者 Y の目の下に位置するマスク面布 30 の上端部分を略水平にカットして、着用者 Y の視野を確保しながら着用時のフィット性を向上させたものである。無論、マスク 80b'、80b'' も間隙部 40 を有しており、機能部材 42 の収容が可能である。

【0029】

また、本発明に係るマスク 80a、80b（80a'、80a''、80b'、80b''）には、図 6 に示すように、マスク面布 30 の内側（着用者 Y 側の面）に着用者 Y の口部分を覆う着脱可能なガーゼ部材 44 を設置するようにしても良い。このガーゼ部材 44 のマスク面布 30 への設置には、マスク面布 30 に張り付く周知のマジックテープ（登録商標）を使用することが好ましい。このガーゼ部材 44 を設置したマスク 80a、80b は、着用者 Y の咳やくしゃみによる病原体の飛散を更に抑制することができる。また、着用者 Y の口の汚れ、化粧、唾液等がマスク面布 30 本体側に付着することを防止し、ガーゼ部材 44 を適宜交換することでマスク 80a、80b の衛生状態を維持することができる。これにより、マスク 80a、80b の長期使用が可能となり経済的であると同時にゴミの削減を図ることができる。

10

20

30

40

50

【 0 0 3 0 】

また、本発明に係るマスク 8 0 a、8 0 b (8 0 a '、8 0 a ' '、8 0 b '、8 0 b ' ') には、図 7 に示すように、マスク面布 3 0 における着用者 Y の目の下及び鼻に位置する部位に粘着層 3 2 a、3 4 a と同様の粘着層 3 8 を設けても良い。尚、図 7 においては粘着層 3 8 をマスク 8 0 b '、8 0 b ' ' に適用した例を示している。この構成によれば、マスク面布 3 0 上部の鼻部及び鼻梁横部分の密閉性を更に向上させることができる。また、マスク 8 0 a、8 0 b の粘着能力を更に向上させることができる。

【 0 0 3 1 】

以上のように、本発明に係るマスク 8 0 a、8 0 b は、保持部材にゴム紐等を使用しないため着用者 Y の耳に不快感や痛みが生じることはない。また、本発明に係るマスク 8 0 a、8 0 b は、粘着層 3 2 a、3 4 a にシリコンゲル系の粘着剤を用いているため、複数回の付け外しを行っても粘着力の劣化がほとんど発生しない。このため、何回付け外しを行っても強い粘着力を維持することができる。さらに、シリコンゲル系の粘着層 3 2 a、3 4 a は肌にフィットするため、従来のマスクよりも着用時の圧迫感や装着感を軽減することができる。

10

【 0 0 3 2 】

またさらに、本発明に係る第 2 の形態のマスク 8 0 b は、着用者 Y の鼻の穴の方向に間隙部 4 0 を有し、この間隙部 4 0 に芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌の成分を有する機能部材 4 2 を収容することができる。これにより、マスク 8 0 b に様々な機能を付与することができる。

20

【 0 0 3 3 】

尚、本例で示したマスク 8 0 a、8 0 b のデザインは一例であり、マスク面布 3 0、第 1 マスク面布 3 0 a、第 2 マスク面布 3 0 b、切欠き部 3 6、第 1 保持部 3 2、第 2 保持部 3 4、粘着層 3 2 a、3 4 a、粘着層 3 8 等の各部の寸法、形状等は、本発明の要旨を逸脱しない範囲で変更して実施することが可能である。

【 符号の説明 】

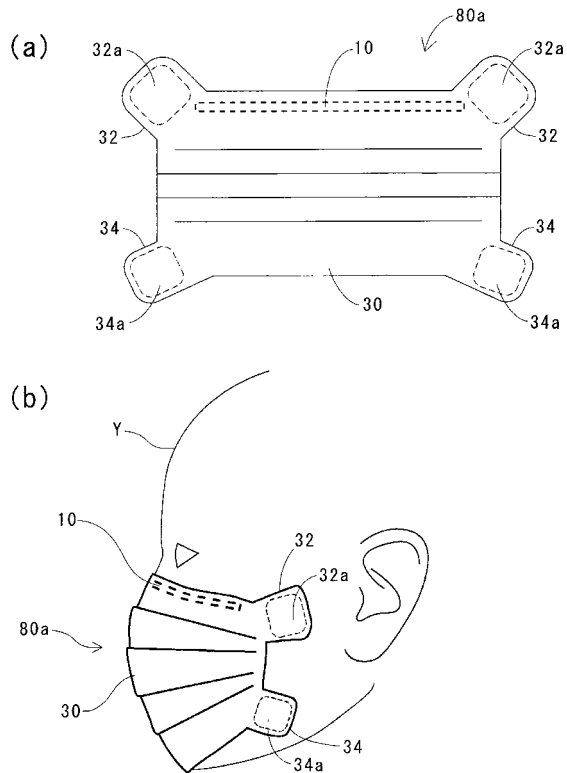
【 0 0 3 4 】

3 0	マスク面布
3 0 a	第 1 マスク面布
3 0 b	第 2 マスク面布
3 2	第 1 保持部
3 4	第 2 保持部
3 2 a	粘着層
3 4 a	粘着層
3 6	切欠き部
4 0	間隙部
4 2	機能部材
4 4	ガーゼ部材
8 0 a、8 0 b	マスク
Y	着用者

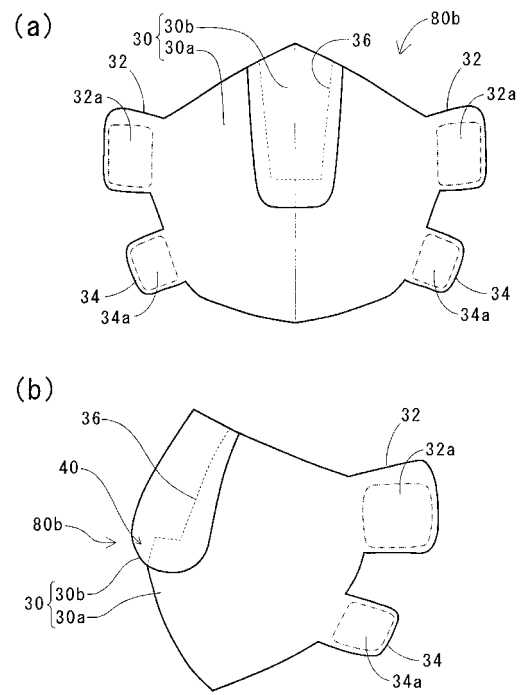
30

40

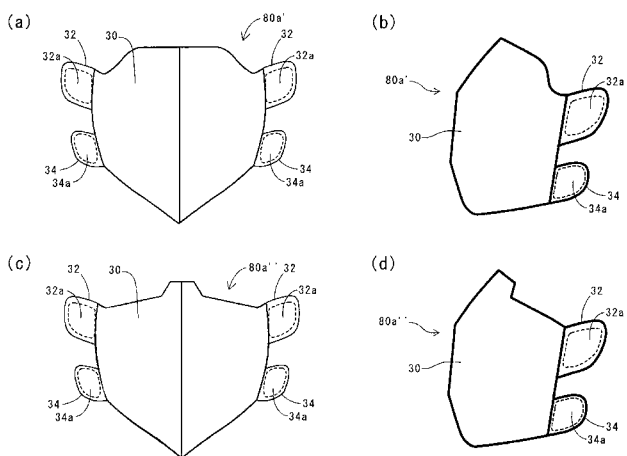
【図 1】



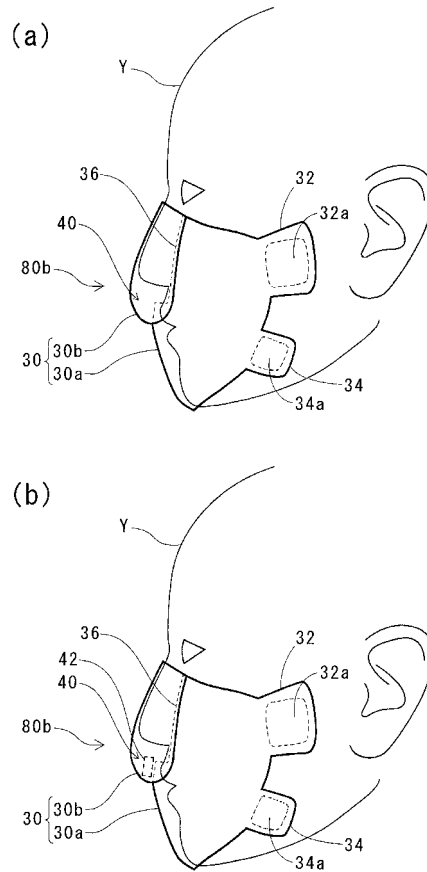
【図 2】



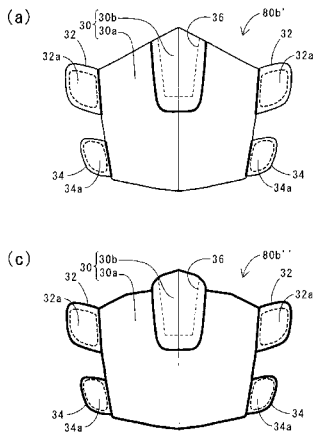
【図 3】



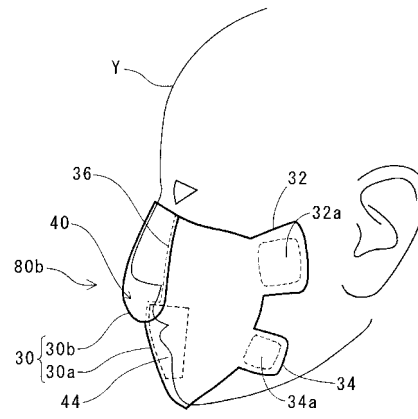
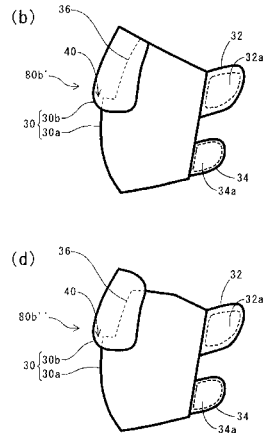
【図 4】



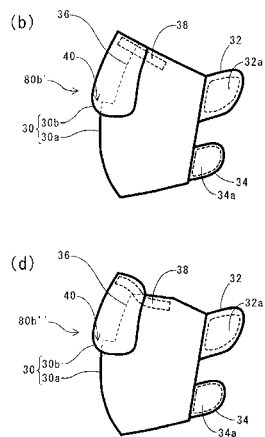
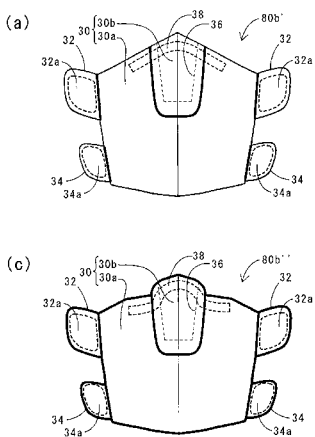
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【手続補正書】

【提出日】平成24年8月27日(2012.8.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

通気性を備え着用者の鼻及び口を覆うマスク面布と、
前記マスク面布の両側部に設けられ前記マスク面布を着用者の顔面に保持する保持部材と、
を備えたマスクにおいて、
前記保持部材は、前記マスク面布の両側上部に前記マスク面布から延出して設けられた一対の第 1 保持部と、前記マスク面布の両側下部に前記マスク面布から延出し且つ前記第 1 保持部とは分かれて設けられた一対の第 2 保持部と、第 1 保持部及び第 2 保持部の着用者側の面に設置された複数回の粘着が可能なシリコンゲル系の粘着剤からなる粘着層と、を有し、
前記第 1 保持部の粘着層が着用者の頬骨部分に密着し、前記第 2 保持部の粘着層が着用者の下顎部分に密着することで前記マスク面布を着用者の顔面に保持することを特徴とするマスク。

【請求項 2】

マスク面布が、着用者の鼻の位置に切欠き部を備えた第 1 マスク面布と、前記切欠き部を覆う第 2 マスク面布と、を有し、
第 2 マスク面布の下端は前記切欠き部の下端よりも下方に位置するとともに前記第 2 マスク面布の下部は前記切欠き部よりも外側に張出し、第 2 マスク面布の下部に第 1 マスク面布と第 2 マスク面布とで形成される間隙部を備え、
着用者の鼻を前記切欠き部を通して第 2 マスク面布で覆うとともに、着用者の鼻の穴の方向に前記間隙部を位置させ、着用者の呼気を前記間隙部に排出させることを特徴とする請求項 1 に記載のマスク。

【請求項 3】

間隙部に、芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌のいずれかの成分を有する機能部材を着脱可能に設置したことを特徴とする請求項 2 に記載のマスク。

【請求項 4】

マスク面布に着用者の口部分を覆う着脱可能なガーゼ部材を備えたことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれかに記載のマスク。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

本発明は、

(1) 通気性を備え着用者の鼻及び口を覆うマスク面布 3 0 と、前記マスク面布 3 0 の両側部に設けられ前記マスク面布 3 0 を着用者 Y の顔面に保持する保持部材と、を備えたマスクにおいて、
前記保持部材は、前記マスク面布 3 0 の両側上部に前記マスク面布 3 0 から延出して設けられた一対の第 1 保持部 3 2 と、前記マスク面布 3 0 の両側下部に前記マスク面布 3 0 から延出し且つ前記第 1 保持部 3 2 とは分かれて設けられた一対の第 2 保持部 3 4 と、第 1 保持部 3 2 及び第 2 保持部 3 4 の着用者 Y 側の面に設置された複数回の粘着が可能なシリコンゲル系の粘着剤からなる粘着層 3 2 a、3 4 a と、を有し、

前記第1保持部32の粘着層32aが着用者Yの頬骨部分に密着し、前記第2保持部34の粘着層34aが着用者Yの下顎部分に密着することで前記マスク面布30を着用者Yの顔面に保持することを特徴とするマスク80a、80b(80a'、80a''、80b'、80b'')を提供することにより、上記課題を解決する。

(2) マスク面布30が、着用者Yの鼻の位置に切欠き部36を備えた第1マスク面布30aと、前記切欠き部36を覆う第2マスク面布30bと、を有し、
第2マスク面布30bの下端は前記切欠き部36の下端よりも下方に位置するとともに前記第2マスク面布30bの下部は前記切欠き部36よりも外側に張出し、第2マスク面布30bの下部に第1マスク面布30aと第2マスク面布30bとで形成される間隙部40を備え、

着用者Yの鼻を前記切欠き部36を通して第2マスク面布30bで覆うとともに、着用者Yの鼻の穴の方向に前記間隙部40を位置させ、着用者Yの呼気を前記間隙部40に排出させることを特徴とする上記(1)に記載のマスク80b(80b'、80b'')を提供することにより、上記課題を解決する。

(3) 間隙部40に、芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌のいずれかの成分を有する機能部材42を着脱可能に設置したことを特徴とする上記(2)に記載のマスク80b(80b'、80b'')を提供することにより、上記課題を解決する。

(4) マスク面布30に着用者Yの口部分を覆う着脱可能なガーゼ部材44を備えたことを特徴とする上記(1)乃至(3)のいずれかに記載のマスク80a、80b(80a'、80a''、80b'、80b'')を提供することにより、上記課題を解決する。

【手続補正書】

【提出日】平成24年11月5日(2012.11.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

通気性を備え着用者の鼻及び口を覆うマスク面布と、

前記マスク面布の両側部に設けられ前記マスク面布を着用者の顔面に保持する保持部材と、
を備えたマスクにおいて、

前記保持部材は、前記マスク面布の両側上部に前記マスク面布から延出して設けられた一対の第1保持部と、前記マスク面布の両側下部に前記マスク面布から延出し且つ前記第1保持部とは分かれて設けられた一対の第2保持部と、第1保持部及び第2保持部の着用者側の面に設置された複数回の粘着が可能なシリコンゲル系の粘着剤からなる粘着層と、を有し、

前記第1保持部の粘着層が着用者の頬骨部分に密着し、前記第2保持部の粘着層が着用者の下顎部分に密着することで前記マスク面布を着用者の顔面に保持するとともに、

前記マスク面布は、着用者の鼻の位置に切欠き部を備えた第1マスク面布と、前記切欠き部を覆う第2マスク面布と、を有し、

第2マスク面布の下端は前記切欠き部の下端よりも下方に位置するとともに前記第2マスク面布の下部は前記切欠き部よりも外側に張出し、第2マスク面布の下部に第1マスク面布と第2マスク面布とで形成される間隙部を備え、

着用者の鼻を前記切欠き部を通して第2マスク面布で覆うとともに、着用者の鼻の穴の方向に前記間隙部を位置させ、着用者の呼気を前記間隙部に排出させることを特徴とするマスク。

【請求項2】

間隙部に、芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌のいずれかの成分を有する機能部材を着脱可能

に設置したことを特徴とする請求項 1 記載のマスク。

【請求項 3】

マスク面布に着用者の口部分を覆う着脱可能なガーゼ部材を備えたことを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載のマスク。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、通気性を備え着用者の鼻、口を覆うマスクに関するものである。

【背景技術】

【0002】

近年、インフルエンザその他の空気感染症に対する予防やスギ花粉等のアレルギー対策として、着用者の鼻及び口を覆うマスクが一般的に使用されている。これらマスクの面布には多種多様な形状、材質、構成のものが商品化されている。ただし、マスク面布の保持は、マスク面布の両側部に設けられたゴム紐等の保持部材を着用者の耳に掛けることで行われるのが一般的である。しかしながら、耳に掛けるタイプの保持部材は着用者が耳に不快感や痛みを感じる場合がある。この問題点に対して下記〔特許文献 1〕では、マスク面布の保持に両面テープを用いた考案が開示されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】登録実用新案第 3 1 2 5 3 0 7 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、マスク面布の保持に両面テープを用いた場合、マスクを顔面から外すと保持部材である両面テープの粘着力が著しく低下する。このため、マスクを顔面から外す度に両面テープの交換が必要となり極めて煩わしいという問題点がある。

【0005】

本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、着用者の顔面に貼るタイプの保持部材を用いながら、何回でも付け外しが可能なマスクを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明は、

(1) 通気性を備え着用者の鼻及び口を覆うマスク面布 30 と、前記マスク面布 30 の両側部に設けられ前記マスク面布 30 を着用者 Y の顔面に保持する保持部材と、を備えたマスクにおいて、

前記保持部材は、前記マスク面布 30 の両側上部に前記マスク面布 30 から延出して設けられた一対の第 1 保持部 32 と、前記マスク面布 30 の両側下部に前記マスク面布 30 から延出し且つ前記第 1 保持部 32 とは分かれて設けられた一対の第 2 保持部 34 と、第 1 保持部 32 及び第 2 保持部 34 の着用者 Y 側の面に設置された複数回の粘着が可能なシリコンゲル系の粘着剤からなる粘着層 32a、34a と、を有し、

前記第 1 保持部 32 の粘着層 32a が着用者 Y の頬骨部分に密着し、前記第 2 保持部 34 の粘着層 34a が着用者 Y の下顎部分に密着することで前記マスク面布 30 を着用者 Y の顔面に保持するとともに、

前記マスク面布 30 は、着用者 Y の鼻の位置に切欠き部 36 を備えた第 1 マスク面布 30

aと、前記切欠き部36を覆う第2マスク面布30bと、を有し、
第2マスク面布30bの下端は前記切欠き部36の下端よりも下方に位置するとともに前記第2マスク面布30bの下部は前記切欠き部36よりも外側に張出し、第2マスク面布30bの下部に第1マスク面布30aと第2マスク面布30bとで形成される間隙部40を備え、

着用者Yの鼻を前記切欠き部36を通して第2マスク面布30bで覆うとともに、着用者Yの鼻の穴の方向に前記間隙部40を位置させ、着用者Yの呼気を前記間隙部40に排出させることを特徴とするマスク80b(80b'、80b'')を提供することにより、上記課題を解決する。

(2)間隙部40に、芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌のいずれかの成分を有する機能部材42を着脱可能に設置したことを特徴とする上記(1)記載のマスク80b(80b'、80b'')を提供することにより、上記課題を解決する。

(3)マスク面布30に着用者Yの口部分を覆う着脱可能なガーゼ部材44を備えたことを特徴とする上記(1)又は(2)に記載のマスク80b(80b'、80b'')を提供することにより、上記課題を解決する。

【発明の効果】

【0007】

本発明に係るマスクは、保持部材にゴム紐等を使用しないため着用者の耳に不快感や痛みが生じることはない。また、保持部材を着用者の顔面に密着させることでマスク面布を保持するため、ゴム紐等を用いた従来のマスクよりも着用時の圧迫感を軽減することができる。さらに、保持部材にシリコンゲル系の粘着層を用いるため、マスクの付け外しによる粘着力の劣化がほとんど生じない。このため、マスクの付け外しを何回でも行うことができる。

【0008】

また、本発明に係るマスクは、着用者の鼻の穴の方向に間隙部を有している。そして、この間隙部に芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌の成分を有する機能部材を收容することにより、マスクに上記の芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌の機能を付与することができる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】粘着層を備えたマスクを示す図である。

【図2】本発明に係るマスクを示す図である。

【図3】粘着層を備えたマスクの他の形態を示す図である。

【図4】本発明に係るマスクの着用状態を示す図である。

【図5】本発明に係るマスクの他の形態を示す図である。

【図6】ガーゼ部材を備えた本発明に係るマスクを示す図である。

【図7】マスク面布の上部に粘着層を備えた本発明に係るマスクを示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0010】

本発明に係るマスクの実施の形態について図面に基づいて説明する。ここで、図1は粘着層を備えたマスク80aを示す図である。また、図2(a)は本発明に係るマスク80bを正面から見た図である。また、図2(b)は本発明に係るマスク80bを側面から見た図である。また、図4は本発明に係るマスク80bの着用状態を示す図である。尚、図4、及び後述の図6においては、マスク80bの着用状態をより明確に表すためマスク80bを透過状態で示す。

【0011】

まず、粘着層を備えたマスク80aと、本発明に係るマスク80bとに共通する構成を説明する。図1、図2に示すマスク80a、80bは、通気性を備え着用者Yの鼻及び口を覆うマスク面布30と、マスク面布30の両側上部に設けられた一对の第1保持部32と、マスク面布30の両側下部に設けられた一对の第2保持部34と、第1保持部32の着用者側の面に設置された複数回の粘着が可能な粘着層32aと、第2保持部34の着用

者側の面に設置された複数回の粘着が可能な粘着層 3 4 a と、を有している。

【0012】

マスク面布 3 0 は、従来のマスク面布に用いられる周知の紙や布を使用することができる。特に、安価で使い捨てが可能な不織布を用いることが好ましい。また、マスク面布 3 0 の上辺部には、容易に変形が可能な変形部材 1 0 を設置しても良い。この変形部材 1 0 は例えば金属製のワイヤや薄板で形成されており、着用者 Y が自身の鼻部にフィットするように変形させることで、マスク面布 3 0 上部における鼻梁横部分の密閉性を更に向上させることができる。尚、変形部材 1 0 はマスク 8 0 b にも設置が可能である。この場合、後述の第 2 マスク面布 3 0 b の上部を幅広に形成し、この幅広に形成した部位に変形部材 1 0 を設置することが好ましい。

【0013】

また、マスク 8 0 a、8 0 b の保持部材は第 1 保持部 3 2 と第 2 保持部 3 4 とそれらの粘着層 3 2 a、3 4 a とで構成され、図 1 (b) 及び図 4 に示すように、上側の第 1 保持部 3 2 の粘着層 3 2 a が着用者 Y の頬骨部分に密着し、下側の第 2 保持部 3 4 の粘着層 3 4 a が下顎部分に密着することでマスク面布 3 0 を着用者 Y の顔面に保持する。このように、本発明に係るマスク 8 0 b は粘着層 3 2 a、3 4 a が頬骨部分と下顎部分とに分かれているため、着用者 Y の口の開閉を阻害せずマスク 8 0 b を着用したまま違和感無く会話を行うことができる。

【0014】

また、本発明に係るマスクでは粘着層 3 2 a、3 4 a にシリコンゲル系の粘着剤を用いる。そして、粘着層 3 2 a、3 4 a は、シリコンゲル系の粘着テープを第 1 保持部 3 2、第 2 保持部 3 4 に固定することで形成することが好ましい。ここで、シリコンゲル系の粘着剤は低刺激でかぶれにくく、またアレルギーの原因物質にもなりにくいという特徴を有している。このため、乳幼児や高齢者、アレルギーを有する人等にも問題なく使用することができる。また、シリコンゲル系の粘着剤は着用者 Y の肌に密着する形で粘着力を発揮する。ただし、粘着剤自体の粘着力はさほど強くないため、粘着層 3 2 a、3 4 a を剥がす際にも肌の角質成分を引き剥がすことがない。このため、着用者 Y は粘着層 3 2 a、3 4 a を剥がす際にも痛みを感じず、また肌がダメージを受けることもない。さらに、粘着層 3 2 a、3 4 a は着用者の顔面に施された化粧の上からでも十分な粘着力を発揮するとともに、粘着層 3 2 a、3 4 a を剥がす際にも化粧落ちがほとんど生じない。このように、粘着層 3 2 a、3 4 a には角質成分や化粧が付着しないため、複数回の付け外しを行っても粘着力の劣化がほとんど発生しない。このため、何回付け外しを行っても強い粘着力を維持することができる。

【0015】

尚、マスク 8 0 a は、マスク面布 3 0 の横方向に沿って複数のプリーツ（折り返し）が形成されており、着用時にマスク面布 3 0 を上下方向に引くことで、マスク面布 3 0 の縦寸法を調整することができる。また、非着用時はマスク面布 3 0 を左右方向に引くことで、図 1 (a) の状態に復帰する。

【0016】

次に、マスク 8 0 a の他の形態を図 3 に示す。ここで、図 3 (a)、(b) に示すマスク 8 0 a ' は、マスク面布 3 0 を着用者 Y の顔面にフィットする形状としマスクの密閉性を向上させたものである。また、図 3 (c)、(d) に示すマスク 8 0 a ' ' は、マスク面布 3 0 における着用者 Y の目の下に位置する部分をカットして、着用者 Y の視野を確保しながら着用時のフィット性を向上させたものである。

【0017】

また、本発明に係るマスク 8 0 b のマスク面布 3 0 は、着用者 Y の鼻の位置に切欠き部 3 6 を備えた第 1 マスク面布 3 0 a と、切欠き部 3 6 を覆う第 2 マスク面布 3 0 b と、を有している。そして、マスク 8 0 b の着用時において着用者 Y の鼻は、図 4 に示すように、第 1 マスク面布 3 0 a に形成された切欠き部 3 6 を通して第 2 マスク面布 3 0 b によって覆われる。

【 0 0 1 8 】

また、第2マスク面布30bの下端は切欠き部36の下端よりも下方に位置している。このため、第1マスク面布30aと第2マスク面布30bとの間には隙間部分である間隙部40が形成される。この間隙部40は、マスク80bの着用時には着用者Yの鼻の穴の方向、即ち着用者Yの鼻の下に位置する。よって、着用者Yの呼気は鼻から間隙部40に排出される。これにより、着用者Yの呼気が鼻梁の横を通してマスク面布30の上側に抜けるが防止され、着用者Yが眼鏡を着用している場合でも呼気による眼鏡の曇りを防止することができる。

【 0 0 1 9 】

また、外気を直接肺に取り込む口呼吸は、外気を鼻腔内で適度に除塵、加湿する鼻呼吸より、健康上、美容上好ましいものではない。この点、本発明に係るマスク80bは、間隙部40の存在によりマスク着用時の鼻呼吸を楽に行うことができる。これにより、着用者Yに対して健康上、美容上好ましい鼻呼吸をマスクの着用時にも促すことができる。

【 0 0 2 0 】

また、間隙部40には、図4(b)に示すように、芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌等の成分を有する機能部材42を収容することができる。この機能部材42は着脱及び交換が可能となっており、長時間の使用等により機能部材42の能力が低下した場合、新しい機能部材42に交換することでマスク80bを破棄することなくこれらの機能を維持することができる。これにより、マスク80bの長期使用が可能となり、経済的であると同時にゴミの削減を図ることができる。また、機能部材42は鼻の穴の方向に位置する間隙部40に設置されるため、鼻の吸気に対する効果的な芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌(除菌)を行うことができる。尚、機能部材42は着用者Yの好みや使用状況、使用目的、使用環境に応じて適宜、選択及び交換が可能である。このため、着用者Yはその時々に応じてマスク80bに必要な機能を付与することができる。

【 0 0 2 1 】

尚、機能部材42に用いる芳香成分の例としては、カモミール、ラベンダー、ミント等のハーブの芳香成分や、ローズ、ミカン、レモン等の花や果実の芳香成分等が挙げられる。この場合、マスク80bは芳香機能を備え、着用者Yはマスクの着用時にも着用者Yの好む香りを嗅ぐことができる。更に、鎮静効果等を有するアロマ成分を含んだ機能部材42を用いれば、着用者Yは職場や公共の場でも人の目を気にせずにアロマ成分によるリラックス効果を得ることができる。

【 0 0 2 2 】

また、消臭成分の例としては活性炭等の周知の消臭成分が挙げられる。この場合、マスク80bは消臭機能を備え、着用者Yが鼻から吸気する外気の中の臭い成分を除去する。

【 0 0 2 3 】

また、保湿成分の例としてはグリセリン等の多価アルコール、その他の周知の保湿成分が挙げられる。そして、機能部材42としてはこれら保湿成分を含有した周知のウェットフィルタ等が挙げられる。この場合、マスク80bは保湿機能を備え、マスク面布30内の空気に適度な湿り気を付与する。これにより、着用者Yの(マスク面布30に覆われた部位の)肌を保湿するとともに、着用者Yの吸気を湿らせて細菌やウィルスの人体への侵入等を防止し、着用者Yの美容と健康の維持を図ることができる。

【 0 0 2 4 】

また、除塵成分の例としては各種フィルタや活性炭等の周知の除塵部材が挙げられる。この場合、マスク80bは除塵機能を備え、マスク80bの除塵効果をさらに向上させることができる。

【 0 0 2 5 】

また、抗菌成分の例としてはカテキン、銀(Ag)等、周知の抗菌成分が挙げられる。この場合、マスク80bは抗菌機能を備え、保湿による抗菌作用よりも優れた抗菌機能を得ることができる。

【 0 0 2 6 】

尚、機能部材 4 2 に付与する成分は複数組み合わせても良い。また、この成分の組み合わせを着用者 Y 自身が選択可能としても良い。

【0027】

尚、上記の芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌成分が液体状の場合、これら液体状の機能成分を布や脱脂綿、スポンジ等を含浸させて、これを機能部材 4 2 とすることができる。また、上記の機能成分もしくは機能成分を含有した材料を、粉末状、粒状、ブロック状、板状、シート状、ジェル状等に加工して、これを機能部材 4 2 としても良い。尚、機能部材 4 2 が粉末状、粒状、ブロック状、ジェル状等の場合、これら機能部材 4 2 を通気性のある袋等に収容して用いても良い。

【0028】

次に、本発明に係るマスク 8 0 b の他の形態を図 5 に示す。ここで、図 5 (a)、(b) に示すマスク 8 0 b ' は、マスク面布 3 0 の形状を矩形化して着用者 Y の顎部分をマスク 8 0 b よりも広範囲で覆うことを可能としている。また、図 5 (c)、(d) に示すマスク 8 0 b ' ' は、着用者 Y の目の下に位置するマスク面布 3 0 の上端部分を略水平にカットして、着用者 Y の視野を確保しながら着用時のフィット性を向上させたものである。無論、マスク 8 0 b '、8 0 b ' ' も間隙部 4 0 を有しており、機能部材 4 2 の収容が可能である。

【0029】

また、粘着層を備えたマスク 8 0 a (8 0 a '、8 0 a ' ')と本発明に係るマスク 8 0 b (8 0 b '、8 0 b ' ') には、図 6 に示すように、マスク面布 3 0 の内側 (着用者 Y 側の面) に着用者 Y の口部分を覆う着脱可能なガーゼ部材 4 4 を設置するようにしても良い。このガーゼ部材 4 4 のマスク面布 3 0 への設置には、マスク面布 3 0 に張り付く周知のマジックテープ (登録商標) を使用することが好ましい。このガーゼ部材 4 4 を設置したマスク 8 0 a、8 0 b は、着用者 Y の咳やくしゃみによる病原体の飛散を更に抑制することができる。また、着用者 Y の口の汚れ、化粧、唾液等がマスク面布 3 0 本体側に付着することを防止し、ガーゼ部材 4 4 を適宜交換することでマスク 8 0 a、8 0 b の衛生状態を維持することができる。これにより、マスク 8 0 a、8 0 b の長期使用が可能となり経済的であると同時にゴミの削減を図ることができる。

【0030】

また、粘着層を備えたマスク 8 0 a (8 0 a '、8 0 a ' ')と本発明に係るマスク 8 0 b (8 0 b '、8 0 b ' ') には、図 7 に示すように、マスク面布 3 0 における着用者 Y の目の下及び鼻に位置する部位に粘着層 3 2 a、3 4 a と同様の粘着層 3 8 を設けても良い。尚、図 7 においては粘着層 3 8 をマスク 8 0 b '、8 0 b ' ' に適用した例を示している。この構成によれば、マスク面布 3 0 上部の鼻部及び鼻梁横部分の密閉性を更に向上させることができる。また、マスク 8 0 a、8 0 b の粘着能力を更に向上させることができる。

【0031】

以上のように、本発明に係るマスク 8 0 b は、保持部材にゴム紐等を使用しないため着用者 Y の耳に不快感や痛みが生じることはない。また、本発明に係るマスク 8 0 b は、粘着層 3 2 a、3 4 a にシリコンゲル系の粘着剤を用いているため、複数回の付け外しを行っても粘着力の劣化がほとんど発生しない。このため、何回付け外しを行っても強い粘着力を維持することができる。さらに、シリコンゲル系の粘着層 3 2 a、3 4 a は肌にフィットするため、従来のマスクよりも着用時の圧迫感や装着感を軽減することができる。

【0032】

またさらに、本発明に係るマスク 8 0 b は、着用者 Y の鼻の穴の方向に間隙部 4 0 を有し、この間隙部 4 0 に芳香、消臭、保湿、除塵、抗菌の成分を有する機能部材 4 2 を収容することができる。これにより、マスク 8 0 b に様々な機能を付与することができる。

【0033】

尚、本例で示したマスク 8 0 b のデザインは一例であり、マスク面布 3 0、第 1 マスク面布 3 0 a、第 2 マスク面布 3 0 b、切欠き部 3 6、第 1 保持部 3 2、第 2 保持部 3 4、

粘着層 3 2 a、3 4 a、粘着層 3 8 等の各部の寸法、形状等は、本発明の要旨を逸脱しない範囲で変更して実施することが可能である。

【符号の説明】

【 0 0 3 4 】

3 0	マスク面布
3 0 a	第 1 マスク面布
3 0 b	第 2 マスク面布
3 2	第 1 保持部
3 4	第 2 保持部
3 2 a	粘着層
3 4 a	粘着層
3 6	切欠き部
4 0	間隙部
4 2	機能部材
4 4	ガーゼ部材
<u>8 0 b</u>	マスク
Y	着用者